



令和3年度「入試科研2」第1回研究会

研究計画の概要について

研究代表者
東北大学教授 倉元直樹

打合せ内容予定

- 本研究の位置づけ
- 研究概要
- 研究体制
- 年度計画
- 運営上の特色
- 研究経費
- お願い
- おわりに

2021/9/6

令和3年度「入試科研2」第1回研究会

2

本研究の位置づけ (1)

- 課題番号：21H04409
- 種目：基盤研究 (A) 一般
- 研究課題名：コロナ禍の下での大学入試政策及び個別大学の入試設計のための総合的大学入試研究（略称：入試科研2）
- 研究期間：令和3～7年度（5年間）
- 研究組織：14名（研究分担者13名）

2021/9/6

令和3年度「入試科研2」第1回研究会

3

本研究の位置づけ (2)

- 位置づけ（縦関係）
- 課題番号16H02051、基盤研究 (A)、平成28～令和2年度 高大接続改革の下での新しい選抜方法に対する教育測定論・認知科学・比較教育学的評価（略称：入試科研）の後継 →
研究コンセプト、運営方法は入試科研を継承
- 本研究の研究組織14名のうち9名が継続

2021/9/6

令和3年度「入試科研2」第1回研究会

4

本研究の位置づけ (3)

- 位置づけ (横関係)
- 課題番号20K20421、挑戦的研究 (開拓)、令和元2～4年度 **「大学入試学」構築への挑戦—真正な評価と実施可能性の両立に向けて—** (略称：挑戦科研) (研究組織10名) を平行して実施中 →
研究コンセプトはやや異なり、運営方法は類似
- 本研究の研究組織14名のうち6名が重複
- 事務局、各構成員には以上の整理をお願いしたい

2021/9/6

令和3年度「入試科研2」第1回研究会

5

研究概要 (1)

• 概要

2014(平成26)年末の高大接続答申で提言された「**高大接続改革**」が実施目前で暗礁に乗り上げた。昨年(2019[令和元]年)末、矢継ぎ早に**英語民間試験**が延期、**記述式問題**の共通テストへの導入が見直しとなり、今年(2020[令和2]年)に入ると**主体性評価**のために設立された「教育情報管理機構」の設置認可が取り消された。翻弄され続けているのは受験生である。個別大学は責任を持って自らの大学を志願する受験生を守らなければならない。さらに追い打ちをかけるように**新型コロナウイルス感染症**(以下、**COVID-19**)が蔓延した。誰も予想することができない非常事態に**文部科学行政**と**各大学**は対策に追われている。

2021/9/6

令和3年度「入試科研2」第1回研究会

6

研究概要 (2)

• 概要(続き)

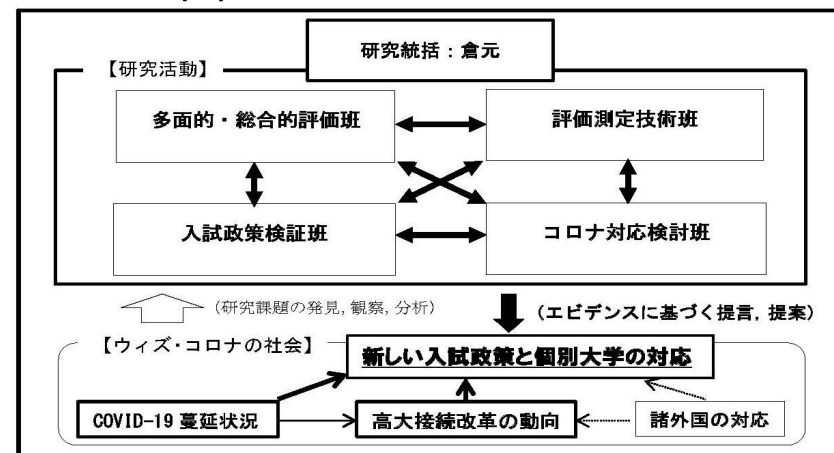
本研究は高大接続改革の進行に並行する形で2016(平成28)年度から5年間実施された**前研究課題(後述)の後継**である。前研究課題では進行中の**改革に即応**しながら、**政策に一定の影響**を及ぼし、個別大学が取るべき具体的な対応策に資する成果を挙げてきた。本研究では前研究課題の方法論と成果を継承する。「**入試政策検証班**」「**多面的・総合的評価班**」「**評価測定技術班**」「**コロナ対応検討班**」の4班編成により「ウィズ・コロナ時代」と称される**コロナ禍の下での大学入学者選抜のあり方**を模索しつつ、刻々と変化する状況における即応する**大学入試政策と各個別大学の対応**のために有益な研究成果の即時的発信を目指す。

2021/9/6

令和3年度「入試科研2」第1回研究会

7

研究概要 (3)



2021/9/6

令和3年度「入試科研2」第1回研究会

8

研究体制 (1)



• 入試政策検証班

- ミッション：大学入試政策の検証
 - 中長期の政策分析、現状に役立つエビデンスを収集
 - 近年の大学入学者選抜政策を検証
 - 高大接続改革方針転換、コロナ禍の双方に関する2021（令和3）年度受験生に対する影響の調査

研究体制 (2)



• 多面的・総合的評価班

- ミッション：コロナ禍での多面的・総合的評価追究
 - 高大接続改革の方針転換とCOVID-19の影響下で、多面的・総合的評価を推進していく方法の追究
 - 英語4技能評価、記述式問題、主体性評価の導入と方針転換が多面的・総合的評価の実施に対して及ぼした影響の分析

研究体制 (3)



• 評価測定技術班

- ミッション：学力の3要素を含む能力評価技術追究
 - 2021（令和3）年度入試のCOVID-19への対応等による大学入試の評価測定技術の変化
 - オンライン面接、オンライン筆記試験、項目反応理論（IRT）を基盤としたCBTなど、情報関連技術の導入に関する調査・分析

研究体制 (4)



• コロナ対応検討班

- ミッション：コロナ禍における大学入試の総合的検討
 - 「ウィズ・コロナ社会」における大学入試の変化の分析
 - 2021（令和3）年度入試におけるCOVID-19対策に関する総合的分析
 - 諸外国におけるCOVID-19の大学入学者選抜への影響に関する調査・分析

年度計画 (1)



• 令和 3 年度

- 入試政策検証班：近年の大学入学選抜政策を中心に検証
- 多面的・総合的評価班：入試政策検証班と共同で調査
- 評価測定技術班：COVID-19 への対応を中心とした大学入試の評価測定技術
- コロナ対応検討班：海外におけるCOVID-19の影響

2021/9/6

令和3年度「入試科研2」第1回研究会

13

年度計画 (2)



• 令和 4 年度

- 入試政策検証班：DB構築を推進、過去の入試政策の総合的検証
- 多面的・総合的評価班：高大接続改革とその方針転換の影響
- 評価測定技術班：COVID-19 の影響による評価測定技術の進歩
- コロナ対応検討班：COVID-19 の影響の総合的分析

2021/9/6

令和3年度「入試科研2」第1回研究会

14

年度計画 (3)



• 令和 5 ～ 6 年度

- 研究班の見直しと組み換えを検討
- 中間報告書の刊行
- COVID-19 の世界的蔓延状況が収束に向かうことを前提に、海外訪問調査を開始
 - 令和 5 年度：英国、フランス、フィンランド等
 - 令和 6 年度：韓国、米国等

2021/9/6

令和3年度「入試科研2」第1回研究会

15

年度計画 (4)



• 令和 7 年度

- 研究成果の取りまとめ
 - 研究の最終成果報告を目的としたシンポジウムを実施
 - 研究成果報告書の刊行
- ### • その他
- 最終年度前年度申請を行うかどうかは応相談
 - 各年度、最低 1 回は研究会を実施
 - オンラインか対面かはCOVID-19収束状況に依存

2021/9/6

令和3年度「入試科研2」第1回研究会

16

運営上の特色 (1)



1. 柔軟な研究計画

- 現在進行中の「高等学校教育、大学教育、大学入学選抜の一体的改革」に**即応**
- リアルタイムに**現在進行中の研究プロセス**を発信
- 研究目標が当初から変化（以上、入試科研）
- 5年間かけてウィズ・コロナと呼ばれる時代の大学入試の在り方について研究 ← **研究内容に限定なし**

運営上の特色 (2)



2. 研究成果公開 (1): **ウェブサイト**の活用

- [入試科研のウェブサイト](#)
- [挑戦科研のウェブサイト](#)
- [入試科研2のウェブサイト](#)（本日公開）
- これから、入試科研2の「**研究報告**」に内容が追加されていく予定
- 科研費以外の成果も**【参考資料】**として掲載

運営上の特色 (3)



2. 研究成果公開 (1): ウェブサイトの活用（続き）

- 特に「研究報告」のページにいくつかの工夫
- [研究報告のダウンロード](#)
 - ① 本研究に関心がある方へのサービス
 - ② 研究報告書作成の便宜 → 実績報告書・実施状況報告書、中間報告書、研究成果報告書作成時に各分担者への問い合わせが不要
- 事務局への研究成果の報告を心掛けてください

運営上の特色 (4)



2. 研究成果公開 (2): 成果物

- 毎年、**東北大学大学入試研究シリーズ**を上梓
 - 入試科研：第2巻『大学入試センター試験から大学入学共通テストへ』
 - 挑戦科研：第1巻『「大学入試学」の誕生』、第3巻『変革期の大学入試』、第4巻『大学入試の公平性・公正性』、第5巻『大学入試を設計する』
- 今年度は本科科研費（入試科研2）で2冊計画中

運営上の特色 (5)



2. 研究成果公開 (3): シンポジウム等

- 他の事業に「共催」「協賛」としてタイアップ
 - **第34回東北大学高等教育フォーラム**（新時代の大学教育を考える [18]） / 国立大学アドミッションセンター連絡会議企画シンポジウム「**検証 コロナ禍の下での大学入試**」、令和3年5月17日開催
 - ← 本日、久保先生の報告
- 科研費シンポジウムを主催（予定）
 - ← 本日、内田先生の報告

2021/9/6

令和3年度「入試科研2」第1回研究会

21

研究経費



- 研究経費（内定金額）総額 32,100,000円
 - 令和3年度：650万円、令和4年度：510万円、令和5年度：760万円、令和6年度：760万円、令和7年度：530万円
- 分担金（学外）総額11,269,000円
 - 各分担者（学外）に**総額約100万円～106万円**
 - 研究計画に応じて年間131,000円～465,000円

2021/9/6

令和3年度「入試科研2」第1回研究会

22

お願い (1)



1. 研究内容

- 変化する状況に則って、具体的な研究テーマや内容を**柔軟に変えていく**ことが研究計画の一部
- 班の名簿は非公開 →
研究内容が班のミッションに縛られる必要はない
- **広い意味**で研究テーマに沿った内容であれば、**積極的に科研費を活用**していただきたい

2021/9/6

令和3年度「入試科研2」第1回研究会

23

お願い (2)



2. 研究成果の発信

- 各分担者には、5年間で**最低1つ**はまとまった研究成果をご提供いただきたい
- ウェブサイトに掲載可能な研究成果が出た場合、なるべく早く**事務局に連絡**を → 研究成果ページの充実
- 本科研費との経費的な関係がなくとも、広い意味で関係する成果は連絡を → **【参考資料】**として掲載

2021/9/6

令和3年度「入試科研2」第1回研究会

24



お願い(3)

3. 謝辞の記載

- 本科研費の成果には、必ず**謝辞の記載**を！
例：本研究は JSPS科研費21H04409の助成による研究成果の一部である。
- 基本的に**「謝辞あり」を成果物**とみなす
- 謝辞がない場合には、ウェブページに【参考資料】として掲載、各種報告書には含めない
- 本科研費の成果物（書籍）の一部に他の科研費の成果が採録されることは構わない



おわりに

- 研究組織の見直しを行う可能性はあるが、基本的に5年間でチームとして成果を挙げたい。
- 是非、ご協力をお願いいたします。
- 何かあれば、事務局までご連絡を

入試科研2事務局_21H04409
<nyushi-kaken2_office@ihe.tohoku.ac.jp>